

食に関するたより

H23.2.2
京丹後市立
弥栄中学校



給食週間（二部）の取組として

給食集会を行いました。

1月27日（木）の4校時に給食集会を行いました。ランチルームで、給食部3年生の司会で給食集会が始まりました。

今年の給食集会は、黒部の梅本修さんに「食べ物にはいのちがあること。そのいのちを私たちはいただいていること。そして、そのいのちと有機農法の意味について」話をさせていただきました。梅本さんの他に、有機農法でお米を栽培されている隅野さん、野間の緑のふるさと協力隊のメンバーであり、有機農法に魅了され、現在梅本さんのもとでお仕事をされている伊藤さんのお話、そして、味田さんが「いのちをいただく」という絵本を朗読して下さいました。絵本の朗読にみんな真剣に聞き入っていました。生徒たちは「食べ物にいのちがあり、そのいのちをいただいていることへの感謝の気持ちが持てた。」という感想をたくさん書いてくれました。

給食では、隅野さんのお米で炊いたご飯と、梅本さんのお人参、ごぼう、大根、ねぎを使った郷土料理の「けんちゃん」、弥栄の郷土料理「羅漢和え」でした。

また、梅本さんたちには給食の試食もさせていただきました。

梅本さん、味田さん、隅野さん、伊藤さん、お忙しい中本当にありがとうございました。

当日の様子が毎日新聞に掲載されました。



左から梅本さん、味田さん、伊藤さん、隅野さん



毎日新聞
1月28日

有機肥料農業を紹介

野菜栽培のいのちの授業

京丹後・弥栄中

京丹後市弥栄町で有機野菜を作っている梅本修さん(47)ら4人は27日、地元の市立弥栄中を訪れ、「いのちの授業」をした。いのちのあるものはすべていのちの循環の中で生きていくことを農業体験を通して教え、提供した野菜や米による給食を

190人の全校生徒と味わった。梅本さんは市農業経営者会議学校給食小委員長。地元の食材による学校給食の実現を目指し、農家仲間らと運動を続けている。

弥栄中卒業生で無農薬の米作りをする隅野和幸さん(31)、エコネ

京丹後事務所長、味田佳子さん(46)、前緑のふるさと協力隊員の伊藤拓さん(30)と一緒に授業をした。

梅本さんは「ご飯の前になせいただきますと誓うのか、知っていますか」と語りかけた。水菜の根がバッタの死骸を食べている写真を



生徒たちに「いのちの授業」をする梅本さん
—京丹後市立弥栄中で

見せながら「すべてのいのちには役割がある」と、農業を使わずに草などの有機肥料に育てられた牛が殺され、解体されて人々のいのちをつなぐ肉になっていくことを表現した絵本「いのちをいただく」を朗読。隅野さんはアイガモ農法の米作り、伊藤さんは農作業での「自然に生かされている実感」を語った。

この後、提供した無農薬の米やニンジン、ゴボウ、ダイコンなどで作ったけんちゃんなどを一緒に食べた。給食部長の平岡歩さん(15)は「いのちをいただいていることがよくわかりました。感謝の気持ちを忘れなようにしたいです」と話した。(塩田敏夫)

生徒の感想

命について考えられて良かったです。いつも「いただきます」は、牛さんや鳥さんに命をくれてありがとうというつもりで言っていましたが、その牛が食べている草やその草を育てているミミズなどのえいようにも感謝しなくてはいけないと思うようになりました。とてもいろいろよく分かりました。それと、朝ごはんの時は、急いでいて言っていなかったと思います。朝ごはんにも命があるのだから、どんなに急いでいても「いただきます」「ごちそうさまでした」は言わなきゃいけないと思いました。
(1年A組 女子)

今日の給食集会では、動物の命の事や人間は動物(植物)のいのちをもらっていることが分かりました。僕は前から肉などを食べていたけど、命をもらっているなんて考えてもいみじかったです。今日の勉強で動物から命をもらっていることが分かりました。そして、今日の給食の「けんちゃん」はおいしかったです。
(1年A組 男子)



赤米と稲穂の展示

人間が何かを食べるためには、動物を殺さなければ生きていけないけれど、殺された動物のためにも、ちゃんと食べなければいけないと思った。有機さい培で野菜を育てると生き物を殺さないからすごくいいやり方だと思った。
(1年B組 男子)

命がつながっているんだなあと思いました。植物がバッタを食べているところで、本当に植物を食べているバッタが、植物の栄養になっていたびっくりしました。植物のありがたみをとっても感じました。
(1年B組 女子)

一つ一つの命に感謝しながらこれからも給食やご飯をいただきたいです。今日の給食の野菜やお米は有機野菜というだけあって、いつもとちがいおいしかったです。
(1年B組 男子)

裏面にも生徒の感想があります。見て下さい!

生徒の感想 つづき

命をいただくということの大切さを改めて知った。最近朝ごはんとかたべるときに「いただきます」を言っていないのも反省することができました。

味田さんが読んで下さった本は、絵本なのに内容はとても感動的な良い話でした。道徳で前にも学習したことのある“命をいただく”ことの大切さ。牛や鳥などを殺して食べると聞くとヒドッと思うけど、それをしなければ私たちは生きていくことができないということを学びました。(2年A組 女子)



今日、はじめて農薬を使わずに野菜や米を作るやり方を聞いて、僕はすごいと思いました。そして、ぼくはいろんな物一つ一つにも命があるということや命の重さと自然のすごさが分かって良かったです。これまでゴミと思っていた落ち葉などもすごく役立つものであるということが知れて自然は良いなあと思いました。

(3年A組 男子)



「まつぶた寿司」

「いのちをいただく」の朗読が特に「命」を食べているという実感につながりました。

アイガモ農法でも、鴨たちのおかげでおいしいお米が食べられたり、農薬を使わずに作った野菜とかすごいと思いました。たくさんの命を食べているということを忘れずに食べようと思いました。(3年B組 男子)

有機農業は、自然とふれあいながらやっていることがわかりました。「いただきます」は命をもらったことの感謝なのでしっかり言うようにしていきたいです。「ごちそうさま」もしっかりしたいです。

(2年A組 男子)

やたら人を当てる人に2回も当てられてビックリしました。牛の話はとても感動しました。食品にするために殺す農家の方も、最近は鳥インフル関係で1頭1羽だけでなく何百頭何千羽、一気に全部殺さなければならない農家の方の気持ちを考えると胸が痛みます。

(2年B組 女子)

私は今まで、食事前の「いただきます」は作ってくれている人に対してだけだと思っていました。でも、野菜やウシなどの動物もその中に含まれていて、感謝しないとダメだと思いました。考えるとあたり前のことだけど、野菜や米も肉も生きていたということを考える機会がなかったので、はじめて気づかされました。

農薬を使わないで野菜を作ることはずごく良いことだと思ったし、今日の話聞いていろいろ勉強になったので、食事をする時は、聞いたことを意識して感謝しながら食べたいと思いました。(3年A組 女子)

有機農業の大変さ、苦労などを知ることができ、メカニズムもしっかり分かったし、命をいただいているのだから、しっかりといただきます。そして、ごちそうさまと言おうと思った。命をいただいている分しっかりと生きていこうと思った。

(3年B組 男子)



「羅漢和え」を配膳する3年生

感動した!!! 命を食べて自分が生きているって事は、ちゃんとその命に感謝せなあかんなあと思いました。みーちゃんが良かった。(2年B組 女子)



司会進行は3年生の給食部が担当しました。

梅本さんの作っている野菜は無農薬の野菜を作るのは手間もかかるし大変だと思いました。でも手間をかけただけあって、おいしかったです。野菜やお肉の命を私たちは食べているから、野菜やお肉に感謝してしっかり「いただきます」と言って食べたいです。

(2年C組 女子)

今まで「薬を使わないいい方法なんだな」というぐらいしか思っていなかったけど、話を聞いて、いろんなものの命がかかわっているんだなと思いました。いつもの食事も、動物から微生物のようなものまで大事にすることでいいものになるんだなと改めて考えることができました。

(3年A組 女子)

農家の人の話や絵本で、食べ物の大切さを改めて感じる事ができて良かったです。農家の人が有機野菜を作るために、たくさんの工夫や努力をしていることを初めて知りました。海水をくんでくるということには、とても驚いたし、そこまでして有機野菜を作っていてすごいなと思いました。

(3年B組 女子)

牛肉の話聞いて「残酷だ!」と思った。でもそうしないと人間って生きていけないのも事実だし、もしあの話をおかしいと思うのなら、食べ物を粗末にはいけない!と思った。

今回の給食集会では、“人間はたくさんの命を殺して生きている”ということを強く感じた。今日から、また、いつも以上に食べ物を大切にしないで…と、思えました。(3年B組 女子)

自分たちが食べている給食はぜんぶ「命」なんだと思うと、感謝して食べなければならないと改めて思いました。

アイガモがあんなに役に立つなんて驚きました。アイガモはお米が大好きだとはじめて知りました。これからは食べ物を残さず食べたいと思いました。(2年C組 男子)



梅本さんの話聞き入る生徒



給食の試食をしていただきました